

ットのホテル客室冷蔵庫に、南部美人が採用されました。たくさんのハイソサイエティーな方々に愛飲されています。又、世界展開で輸出はNY、ロンドン、香港、シンガポール、ドバイ或いはニュージーランドまで進出中です。

「日本酒は日本の誇る最大の文化」という理念の下、「南部美人」は郷土の原料、郷土の微生物、そして郷土の技術が詰まった最高の傑作である地酒と自負します。ブラジルに南部美人が到着しましたら県人会の皆様、岩手の雄大な大地を思い浮かべて飲んで頂ければ光栄です。来年3月頃ブラジル行きを計画中です。その時は是非皆様と岩手の地酒で乾杯したく思います。

遠く祖国を離れ活躍されている皆様の今後のさらなる発展の一助に私どものお酒が役立てられれば幸いです。末尾に貴ブラジル岩手県人会の今後の飛躍を祈ります。

自分史『風にむかって立つ』

長年岩泉町長を務められた八重樫協二さんが今年4月自分史「風にむかって立つ」を発行されました、その中からブラジル訪問の部分の抜粋を掲載します。



ブラジル訪問

八重樫協二

昭和63年10月、ブラジルの岩手県人会が創立30周年を迎えた。気候風土も言葉も生活も違う地球の反対側にある新天地に夢を託し、さまざまな苦難を乗り越えてきた県人の熱い思いに応えるために、このとき中村知事をはじめ80人を越える訪問団がサンパウロ市のブラジル日本文化協会記念講堂で開かれた記念式典に出席した。私もその一員となり3度目のブラジル訪問を果たした。最初の訪問が昭和53年、2度目が昭和58年で、私は、5年おきにブラジルへ行ったことになるが、その理由は、岩泉高校の卒業生でボクシング部の愛弟子である熊谷泰志君がサンパウロに居るからである。岩泉高校にボクシング部ができたのは昭和24年であり、私が初めて町議会議員になった翌年のことだった。私は、自分の経験をいかして岩泉高校からチャンピオンを出したいと願い、生徒達と一緒に汗を流し、ボクシングのイロハから指導した。すると、その成果がすぐに現れて、昭和24年の県民体育大会高校の部および県高校総体で熊谷君が優勝した。また翌年の県民体育大会の部ではフリー級の箱石文平君、フライ級の佐々木遭君が優勝、モスキート級の熊谷君が準優勝とい

う輝かしい成果をあげ、岩泉高校が総合優勝した。さらに昭和26年の高校総体でも岩泉高校が総合優勝し、最初の黄金時代を築いた。彼らの活躍は、岩泉の人々に大きな感動と勇気を与えた。小さな体の熊谷君が、大きな優勝旗を掲げながら岩泉の商店街をパレードしたときの姿は、今も目に焼き付いている。熊谷君は、高校を卒業すると私の母校である東京農薬大学へ進学して大学時代はジュニアバンタム級で活躍し、日本チャンピオンのタイトルマッチを闘うボクサーに成長した。しかし、タイトルマッチで敗れるとすぐに横浜港から船でブラジルへ渡り、向こうにボクシングの道場を作るという夢をもって新しい人生のスタートを切った。彼はその後サンパウロで事業家として成功し、日系二世の女性と結婚して立派な家庭を築き、ブラジルの岩手県人会でも活躍するようになった。そして、ブラジル岩手県人会創立20周年の昭和53年、熊谷君から「ぜひブラジルに来てほしい」という手紙が届いたとき、「よし行ってみるか」ということで一人でサンパウロを訪問した。感激の再会を果たした私は、わが子の成長を見るような喜びを感じた。その様子を見ていた奥さんは、熊谷君が私たちと一緒に岩泉に帰ってしまうのではないかと心配していた。2度目の訪問は、ブラジル岩手県人会創立25周年の年で、熊谷君は岩手県人会の副会長として活躍していた。このときは、私と家内と息子の三人でブラジルを訪問した。熊谷君は私たちを大歓迎し、毎日ふるさと岩泉の話題に話を咲かせた。こうして2度のブラジル訪問の経験があったので、ブラジル県人会創立30周年記念式典を盛大にお祝いすることになったとき、私はその準備段階から積極的に関わった。主な参加者は、中村知事夫妻、菅三郎県議会議員、千田真一宮古市長、鷹木壮光紫波町長などである。10月20日夕方、サンパウロの日本人街で前夜祭が行われ、北上から参加した鬼剣舞、盛岡のさんさ踊り、そして勤進帳を乗せた盛岡山車で数万の観衆で埋め尽くされた日本人街をパレードした。さんさ踊りには日系婦人会から300人が参加して華やかな踊りを披露し、盛岡山車は盛岡からやって来た20余人と県人会有志50人ほどが綱を引いて前夜祭を盛り上げた。パレードの終点である自由の広場では、私も知事夫妻や議長夫妻とともに舞台上がって観衆の拍手にこたえた。翌日、ブラジル日本文化協会記念講堂で開催された記念式典も実に盛大であった。会場には岩手関係の移住者900人が集まり、村松吉次郎（矢巾町出身）県人会長が、『ブラジル移民は、80年前に笠戸丸でやって来た781人の先人から始まり、その後続いた一世の人びとの苦難と努力によって土台が築かれ、二世、三世の活躍によって大きく発展しました。ふるさと岩手は、多くの面で私たちを支えています』と挨拶した。これに対して中村知事が、『みなさんの労苦を讃え、その活躍に感謝するとともに今後も全県をあげて日本とブラジルの友好を推進します』と激励した。この思いは私も同じである。私はもうブラジルを訪問することはできないと思うが、ふるさとを遠く離れて異国の地で活動する県人との交流が今後も長く続くことを願わずにはられない。

長出席。※ 東北親睦演芸祭実行委員会会合に千田会長、田中書記、昆野会計出席。

11日 会計監査あり。栃沢、高橋（昭）、伊藤、及川、高橋（万）の各氏で行う。※ 午後より定例役員会開催。主な議題は、小泉首相歓迎、和泊温泉旅行、東北演芸祭、児童作品交換交流、家族慰安ピクニック、臨時総会、和泊器購入、他県式典出席など。

13日 二戸市の久慈氏より地酒輸出記事掲載の岩手日報受領。

14日 小泉総理初来伯。※ 会報120号コミケグラフィックより届く。

15日 小泉総理慰霊碑参拝のため県連執行部員として千田会長慰霊碑で総理を迎える。文化協会での総理歓迎に役員会員など多数出席。※ 会報120号を会員、青年部、和泊団体、県関係、賛助会員海外県人会などへ発送。高畑氏、山道夫人手伝う。

16日 NY岩崎県人会より南部美人蔵元から、ご挨拶原稿のメール転送あり。※ 小泉総理ルラ大統領と会談。※ 青年部ボ語ボレフ50部発送。

17日 「南部美人」が来る、女性ではありません「岩手県の地酒です」とコミケ新聞が掲載。

18日 苫米地さんの書簡が「旧神戸移住センター資料室の移民資料」にと、コミケ新聞掲載。

19日 料理講習会に20名程参集。餃子と春巻きの作り方であった。畑氏ビデオ撮影。

20日 高橋紀雄金ヶ崎町長より書画の礼状とブラジル児童へお礼として町のポストカードの送付あり。近くサミゲルアルカゾへ行く及川さおりさんへことずける。

※ 県連執行部会へ千田会長出席。

21日 高齢者招待慰安親睦和泊温泉旅行へ42名出発。※ 盛岡市の吉田重雄氏より会報受領や近況の電話あり。※ 臨時総会案内状291通発送。

23日 夕刻和泊温泉旅行者全員無事で帰聖。

※ 宮古市出身の岩船信一氏来訪（コミケ新聞深沢氏の義父）。※ 広報金ヶ崎9月号受領。

27日 苫米地さんより古文書コピーの送付あり。

28日 海上自衛隊練習艦隊かとり小林首席幕僚よりブラジル訪問の礼状あり。

29日 岩船信一氏より「賛助会員」の申込みあり。

※ 菅原圓雄氏（賛助会員花巻）より会報受領と近況の手紙受信。※ 午後7時より宮古出身の岩船ご夫妻、娘夫妻を迎え役員にて歓迎会を行う。出席は千田会長夫妻、藤村、菊地、佐々木、高橋信夫、マウロ、ワシントン、エレナ、田中婦人部長石井、矢野、山道の各氏。

30日 熊本県人会で行われた県連代表者会議へ千田会長出席。議題は、フェスティバル「ドジャポン」、移民のふるさと巡りなどについて。ふるさと巡り（アマゾン地方、マカパ、赤道直下、ベレン、サンタレン、マナウス）に大志田良子さん、及川君雄、東子夫妻が参加。※ 山田町の松本トミさんより故鈴木善行氏遺族である俊一氏が10日山田町入り（11日町でのお別れ会）されたので、早速県人会よりの弔電を届けたとの事。遺族は遠くブラジルからの弔電に感謝していたとの便り。

☆ **逝去** 波岡 健一さん（行年83歳、紫波町出身、昭和9年渡伯）は、9月30日逝去されました。ご冥福を祈ります。

☆ **会費納入者名**（敬称略）
山口山田 えつこ（新会員）、高橋 義明、
（累計167名）

☆ **寄贈・寄付**
高橋 巳之吉様 佐々木 憲輔様 お茶菓子

「美人」からのメッセージ

千田会長 様
NY岩手県人会長 岩崎 雄亮

この度小生の紹介で、サパカの大和商事さんを通して、郷土の地酒「南部美人」をブラジルに輸出する事が決まりました。既に千田会長には、岩手日報での紹介時コメントを頂いており厚くお礼申し上げます。

南部美人五代目久慈浩介蔵元に当ニューヨークでお会いし、世界に郷土の酒を紹介したいとの意気込みに感動しました。微力ながらお手伝い出来ないものかと思ひ、ブラジル国に紹介した次第です。

今般同久慈氏より別添えのメールが入りました。是非、貴県人会ニュースに掲載頂ければ幸いです。

ごあいさつ



はじめまして、私は岩手県二戸市で103年続く蔵元、地酒「南部美人」の五代目久慈浩介です。

このたび在NY県人会、岩崎会長のご紹介で貴ブラジル岩手県人会賛助会員に入会させて頂きました。

私どもの「南部美人」が『縁』ありまして日本より最も遠い国ブラジル迄輸出される事となり、大変嬉しく思っております。

「南部美人」は三代目の祖父（93歳で元気、戦中は戦艦大和の護衛艦乗員）が、戦後新しい形の日本酒として開発を勧めました。

「南部」は南部藩の地名を頂き「美人」は当時原料、技術も不足で雑な甘い酒が多い中、キリリとした美しい酒を造りたいとの思いから「南部の国の美人の酒」南部美人として命名したのです。

祖父は地元で愛される地酒でありたいとの願いで育てました。高度経済時代に入り、四代目の父は岩手以外の主要都市に広めたいと願いました。はじめて東京銀座三越に南部美人が並んだ日の感動は忘れる事が出来ないと、今でも父が話します。

平成に入り五代目の私が引続き全国展開を計って今では北海道から沖縄まで日本酒愛好家に親しまれ最近では、東京六本木ヒルズに並ぶグランドハイア

100周年の2008年を「日本ブラジル交流年」として両国で祝う事を確認、また今後5年間に千人以上のブラジル人学生や青年を日本に招く事などを共同声明に盛り込んだ。マツのパンデレイ選手も総理の歓迎に現れ懇談した。一行は夕刻メキシコ向け離伯。

料理講習会 ギョウザ&ハルマキ

9月19日(日) 午前10時より婦人部、青年部により餃子、はるまきの作り方講習会がありました。参加者20名。畑さんビデオ取材。

(写真は講習風景と出来上がった餃子・ハルマキ)



キロンボ温泉旅行

9月21日22日23日と高齢者招待慰安温泉旅行が行われ42名が参加しました。(順不同)

星正人、石井紅夫、多田文子、井貝須磨子、田中保子、塚田修吾、塚田よし子、本田ムメ、高橋万右衛門、高橋銀子、千葉キク、山道洋子、阿部安忠、野崎須美子、千田まさ、後藤妙子、後藤美智恵、加納ナカ、寺田雪江、三部喜栄、伊藤春野、伊藤欣子、及川益夫、武田ツル子、佐々木和子、亀ヶ沢梅吉、亀ヶ沢百合子、小原あや、及川ユキ、吉田義己、吉田美智子、畑勝喜、菅原英一、菅原洋子、篠崎英二、篠崎イチ、清水宮路、藤村光夫、三原寿起、三原悦子、阿部和男、安倍トヨ、

お知らせ

10月17日(日) 臨時総会を行います。
議題は、定款改正です。(新民法2002年1月10日付け法令40.106号にもとずいた改正)
第一次招集 午前9時30分
第二次招集 午前10時
※ 午後からは、親睦交流会を行います。
毎度の事で申し訳ありませんが、会員皆さんの持ち寄りをお願い致します。その他県人会で用意。

- ☆ 10月24日(日) 家族慰安親睦ピクニックを行います。場所はモジ市のシチオ佐川です。
- ※ 近くのガロンデシャ(日本式建築保存物)で陶芸教室を見学します。 ※ 交通 バスを一台用意致します(要申込み) 費用10レアル ※ 自家用車の方は地図を参照下さい ※ 食事は各自弁当をお願いします。県人会でシュラスコ、飲み物等を用意します。
- ☆ 11月19日20日21日と青年部による、海浜旅行を行います。場所は例年提供頂いている伊藤さんの別荘、バルフォア郡マラダダプライアです。
- ☆ 12月12日(日) 忘年会と第27回高齢者懇親誕生日会が行われます。

賛助会員紹介(8)

第38号 岩船 信一 (Shiniti lwafune) 69歳 宮古市出身、東京都世田谷区在。妻静子さんと娘(雅子さん)夫婦を訪ねて9月3日に初来伯。入会理由一懇親をより深める為。出来ればブラジルに在住したいとの希望あり。会員(A) 1口



盛岡生まれの内山氏逝く

戦前戦後70年間新聞人として活躍した、サンパウロ新聞内山勝男氏(新潟 94歳)編集主幹が去る9月10日亡くなられた。氏は新聞界はもとよりコロニアの生き字引でもあった。

県人会監査役である伊藤春野氏の話によると内山氏は、盛岡で生まれ13歳まで岩手で暮らしたとの事。ここ数年会報も差し上げていたが。合掌

県人会の動き(9月)

- 1日 金ヶ崎町へ書画提供のお礼として、絵ハガキを贈る。 ※ 千田会長県連執行部会へ出席。
- 2日 多田マウロ君よりボ語9月号原稿受信。 ※ 石井氏会報の校正・構成案を手伝う。
- 3日 会報120号原案を印刷所へ届ける。
- 7日 ブラジル独立記念日(182年目)。
- 8日 県連執行部会に千田会長出席。 ※ 渡辺花巻市長より再3選の挨拶状あり。
- 9日 金ヶ崎町千葉由佳里さんより児童への絵ハガキが届いたとメールあり。 ※ 昆野会計は経理処理を行う。
- 10日 二戸市の久慈氏より岩手日報記事「世界を酔わす岩手の地酒(8月27日付)」コピーを受信。 ※ 文協で行われた小泉首相歓迎説明会へ藤村副会



小泉総理ブラジル訪問

感激のヘリ着陸・グアタパラ移住地

9月14日午前、小泉純一郎首相が96年の橋本首相以来8年ぶりに初来伯。空港からアルギン州知事などに案内され日本の円借款でチエテ河流域環境改善工事が行われている現場を視察し、ブラジル国名の由来となった「パウ・ブラジル」を植樹した。



ホテルでは総理の従兄弟井料夫妻（鹿児島）と水入らずの昼食をとる。午後からは州知事案内でプラドポリ市周辺（リベロンプレット地方）農業視察途中、グアタパラ移住地笠戸丸移民配耕地）上空で歓迎小泉の文字にいたたまらず知事らと急遽ヘリで着陸、歓迎に答え握手や万歳をするなど粋な計らいを見せた。

15日首相はセララ公園の開拓先亡者慰霊碑を訪れ、出迎えた県連役員などと握手、出身地など会話を交わし献花、参拝記帳を行った。記念写真に役員等と納まる気さくさに自然体を見た。続いて近くの日本館を視察、植樹などを行った。

（写真は慰霊碑前にて）



感涙・・・ 熱い思いが涙を誘う

午前11時過ぎ首相とコロニアとの会合の為文協着、貴賓室で日系5団体との懇談後、1200余名の歓迎陣が待つアクトリオでは拍手に迎えられ登壇、日語学園生徒から花束を受ける。首相はBom dia（お早う）温かい歓迎を頂きObrigado（ありがとう）とポ語を交えた挨拶に大きな拍手、ブラジルは初めてだが従兄弟がいるため近い国と感じていたと説明。昨日はヘリで農業地帯を視察途中、グアタパラ移住地上空では出来れば花束を投げてとの要望にグラントに「歓迎・小泉首相」と書かれ「鯉幟」を見た首相は州知事と相談し急遽下りる事にしたと経緯を説明。

移住地上空通過を待っていた入植者達は粋な計らいに感激、皆から「涙をもって迎えてもらった・・・」と首相。異郷で耐え忍んだ一世移民の心を思ったのか、感傷の涙に咽びながらスピーチが中断、その間約30秒。来場者は首相の突然の落涙に心を打たれ目頭を拭う者が多く見られた。会場からは総理の涙に大きな拍手の波がしばし続いた。アテネ五輪最終日の男子マラソンで先頭を走っていた伯バングレ

選手が民衆に邪魔されて、三位になったが明るく最後まで走り続けた様子をテレビで見て「アッ」この選手の行動こそ、まさしくBrazilの良き国民性を代表しているとの感想を述べられた。

首相挨拶に続き上原文協会長の音頭で万歳三唱があった。その間15分程度であったが、首相の歓迎に貸切りバスを用意した地方の人々、早朝から列を作って一目でもと4時間も待つ人々で一杯であった。首相は引き続き移民資料館を興味深く見学。州政庁でアルギン知事招待の午餐会に出席後、次の訪問地ブラジリアへ向かった。

16日はルラ大統領と会談、人的、技術などの交流強化や、移民